

平石地区 北組自治会

「自治会加入を促す新たな手法で会員増」

●加入世帯数：57世帯

●加入率：68.7%

活動内容

当自治会は国道新4号と辰街道の間で、枝垂桜で名高い広琳寺周辺の農家、非農家が混在する61戸を6班で構成し、内10戸が26年4月、4戸が同年8月に入会し9月現在73.5%の加入率となったところです。

<催事>

7月は3年に一度の平出雷電神社の梵天奉納、8月は老人ホーム高砂荘での盆踊りと天災お日待、10月の体育祭、正月の新年会、小正月のどんどん焼きでは高砂荘の入所者を招き、車越しに繭玉を手に喜んでいただいています。これらの事業を通して多くの会員が参加し楽しんでいただいています。のどかな田園風景と平石の人情味あふれる地域です。

<防犯灯>

15年程前に通学路の安全確保から3自治会が連携し前例の少ないナトリウム灯を選定し、助成枠を超える電気料の支出と、設置灯数を減らす自助努力を実現してきました。後年、鬼怒中学校PTAでもナトリウム灯を設置し、当時の防犯灯はまだ現役です。

<廃品回収>

近年まで子供会の事業としてきた

ところではありますが、少子化に伴い回収事業ができなくなり自治会が核となり四季ごとに回収を実施し、収益は公民館の維持費に充てています。

<話し合い>

地域内を縦断する渡河道路事業は暫く自治会員が知る環境がなく、宇都宮土木事務所と関連する宇都宮市へ度重なる説明を求め、何度も出席を促す回覧を作り、意見を集約して、平成25年夏に県・市道の一部が供用の運びとなりました。今般、若い会員が増えたことにより秋の体育祭では好成績が期待できます。これらは、多くの話し合いがもたらした成果です。

加入率を維持する秘訣

当自治会は、先の東日本大震災で被災した平出雷電神社の復興事業の折、寄付と奉仕を氏子に呼びかけ、地域の氏神様等を大事に保存しようと皆で行動した祭にヒントを得ました。

県の渡河道路建設に絡めた市道整備についても説明会を数多く開催し会員が納得できました。

自治会未加入の方には共益金の協力を検討し、2年越しで協力を願ったところ理解が得られ会員増に繋がりました。当事例は今後、自治会加入を促す新たな手法と考えられます。